

## 2020 年 3 月期第 3 四半期 決算電話会議 議事録 主な Q&A

日時 2020 年 1 月 31 日 (金)

16:00~17:00

### 質疑応答

Q1.ASF・新型肺炎など中国国内のリスクと来期以降の外部環境の影響について

・中国国内の新型肺炎が与える影響は注視しなければならないが、現時点での算定は困難。現在、中国向け牛肉相場は下落しているが、春節後の買い付け状況を注視する必要がある。

Q2.機構改革における取り組みの進捗について

・関連企業本部の再編については、重複事業の見直しを行い、加工事業のもつ商品開発力と営業力を生かして、シナジー効果を創出して収益性を改善していく。その上で、中長期では ROIC を踏まえた事業の在り方を決定していくことになる。

経営企画本部を創設した狙いは、第一は経営戦略の策定・推進強化であり、全体最適の視点で、各種取り組みを実施していく。また、システムの変革による業務の効率化・標準化も実行していく。

Q3.豪州とウルグアイの第 3 四半期と第 4 四半期以降の業績に影響を与える外部要因と内部要因について

・豪州においては、素牛価格が高騰する中、フィードロットの強化などの施策を行ってきた。第 3 四半期においては、干ばつの影響により牛の集荷が進んだことで業績が想定を上回った。第 4 四半期以降については、引き続き生産性の向上など内部改善を図っていく。

ウルグアイに関しては、昨年末以降中国における牛肉需要が減退する中、グラスフェッドの構成比が高くコモデティ化してしまい、消費動向の影響を直接受けている。

Q4.食肉事業における第 3 四半期と第 4 四半期以降の業績に与える外部要因と内部要因について

・第 3 四半期は、国内牛肉価格の下落による販売環境の改善や鶏肉生産の供給体制の強化と生産性改善などでポジティブな環境がそろった。輸入食肉市況も年末の鶏肉販売価格の上昇で、想定を上回った。

しかしながら、第 4 四半期は反動もあり、厳しい状況が続くとみている。また、ファーム事業の影響も大きく、鶏肉の相場下落分を供給体制強化で補うも厳しい環境が継続する。豚に関しても出荷頭数の減少と疾病対策などで厳しい状況を見込んでいる。

来期については、国産食肉の環境改善と米国産牛肉の拡大を期待したい。

Q5.加工事業の業績好調要因に関して

・シャウエッセンの各施策の実行で購買層を拡大することができた。このことが業績に反映しており、今後も継続した取り組みをおこない、シェア拡大を図る。

Q6.第3四半期の関連企業の収益改善について

・宝幸の業務用チーズとバニラヨーグルトが堅調に推移した。また、ドリンクヨーグルトにおけるPB商品の発売なども業績を下支えした。